



- 第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐる 平成18年9月19日
講師/佐倉 一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
- 第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師/久米 えみさん ながのクラッセ会長
樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
- 第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師/鷹沢 幸一さん アスレながの事務局長
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

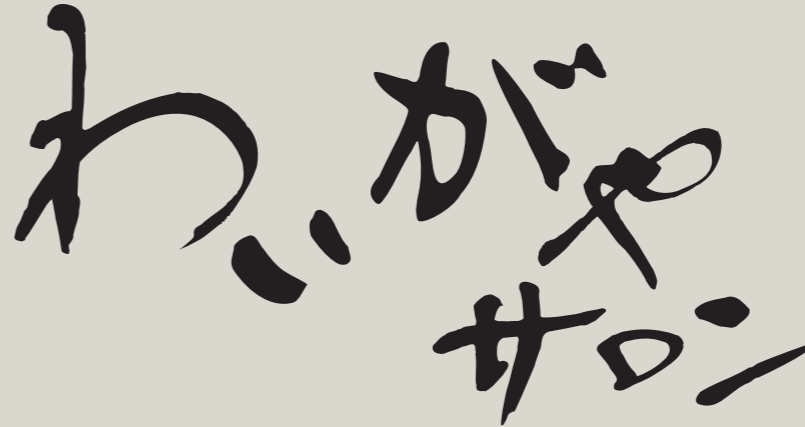
- 第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師/清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター
- 第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師/虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーキュルヴェータ・健康セラピスト
- 第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOIGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師/竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]
- 第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師/木田 勇さん 信濃グランセローズ監督
- 第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師/荻原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト
- 第9回 トウガランの尽きせぬ魅力/「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師/松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授
- 第10回 命のバトンを渡す「ピオトープ」/長野市をピオトープネットワークシティに 平成19年11月14日
講師/松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
- 第11回 簡単・おいしい・オシャレ/わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師/浜 ことみさん クッキング・コーディネーター
- 第12回 あなたのからだは「築何年」ですか? 平成20年7月14日
講師/角本 浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士协会会长
- 第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日
講師/針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
- 第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師/水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長
- 第15回 長野バルセイロー 一優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師/バドゥ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、真富信宏キャプテン
- 第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師/町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事
- 第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師/中山 修さん 中山法律事務所 弁護士
- 第18回 循環備蓄型の農業の実践ー宇宙のリスムにあった農業で一次産業の再生を試みるー 平成21年6月3日
講師/塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役
- 第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日
講師/小出 陽子さん (同)ぶきっ子のお八起 代表/信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
- 第20回 信州の伝統から生まれる食文化ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師/宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役/木の花屋
- 第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく! 平成21年11月24日
講師/志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よりこらしよ 代表理事
- 第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師/薩川 了洋さん AC長野バルセイロ新監督
- 第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師/石沢 一男さん (有)田舎工房 代表取締役
- 第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師/新谷 志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務
- 第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師/越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属
- 第26回 Go to J ～Jを長野に…いよいよ地域決勝大会!～ 平成22年10月25日
講師/鈴木 政一さん 長野バルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
- 第27回 グラントデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師/千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ
- 第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師/川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表
- 第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師/安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)
- 第30回 江戸のエコロジストー茶ー 平成23年8月30日
講師/マブソン 青眼さん 俳人・比較文学者
- 第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師/井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
- 第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師/田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役
- 第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師/飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営
- 第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師/相原 哲さん ながの町神輿連合会武睦会 会長
- 第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師/小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務
- 第36回 すべてが一丸となって、ながのの宝もの。をJへ 平成24年4月24日
講師/薩川 了洋さん AC長野バルセイロ監督
- 第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師/小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員
- 第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師/塩澤 研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事

- 第39回 善光寺表参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師/俣田 達男さん NTT東日本 長野支店長
- 第40回 しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略 平成24年12月6日
講師/山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役
- 第41回 自然との共生 平成25年2月28日
講師/藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家
- 第42回 花は人を育てる 平成25年4月9日
講師/矢澤 秀成さん 園芸研究家/ながの花と緑そして人を育てる学校校長
- 第43回 人と組織の笑顔の創造 平成25年5月31日
講師/近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長
- 第44回 信州の分水嶺 ～山と川と里～ 平成25年8月22日
講師/栗田 貞多男さん 写真家
- 第45回 長野市の魅力と不動産取引の発展性 平成25年11月20日
講師/鶴志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長
- 第46回 地域におけるバイオマス活用について 平成26年1月29日
講師/天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授
- 第47回 AC長野バルセイロー 私のチームマネジメントについて 平成26年3月3日
講師/美濃部 直彦さん AC長野バルセイロ監督
- 第48回 わたしにとってのボランティア 平成26年4月16日
講師/丸田 勉さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長
- 第49回 金沢の未来と長野へのエール 新幹線で結ぶ金沢と長野の絆 平成26年5月26日
講師/浅野 邦子さん 株式会社 箔一 代表取締役会長
- 第50回 取材を通してみた長野の魅力 ～長野をもっと元気に!～ 平成26年10月8日
講師/平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー
- 第51回 チームマネージメント 平成27年1月19日
講師/本田 美登里さん AC長野バルセイロ・レディース監督
- 第52回 本物のおもてなし ～加賀屋の経営理念とビジョン～ 平成27年3月17日
講師/小田 興之彦さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長
- 第53回 地域の元気をつくる「成長企業」は、ここが違う!～地方の中規模企業が成功するための法則とは?～ 平成27年7月1日
講師/廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長
- 第54回 長野から宇宙へ! ～ローカル企業のチャレンジ～ 平成27年8月25日
講師/羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役
- 第55回 食を通じて発見 知られざる長野の魅力! 平成27年10月8日
講師/中島 麻希さん 1級フードアナリスト
- 第56回 摩訶不思議! 長野の神々の靈感の世界 平成27年11月17日
講師/齋藤 安彦さん 宮司

- 第57回 大河ドラマ「真田丸」の舞台裏 ～撮影を通して見た信州の魅力～ 平成28年4月2日
講師/屋敷 陽太郎さん NHKチーフプロデューサー
- 第58回 真田丸の時代を語る ～時代考証の舞台裏 平成28年7月2日
講師/平山 優さん 歴史研究家
- 第59回 寺町商家の運営で気づいた、食の力 平成28年8月30日
講師/西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー
- 第60回 地域から社会を変えよう! 行動する人の集まる港CREEKS 平成28年11月11日
講師/広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬建設設計室代表
- 第61回 長野バルセイロー ー今シーズンの目指すチームづくり 平成29年3月13日
講師/浅野 哲也さん AC長野バルセイロ監督
- 第62回 輝く女性の活躍で長野県の企業を更に魅力的に! 平成29年5月30日
講師/中島 恵理さん 長野県副知事
- 第63回 信州は橋の都 千曲川と犀川に架かる名橋/日本一美味しい飯山のお米 平成29年7月19日
講師/服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー
- 第64回 少子高齢化時代の長野市を考える ～行政の政策現場から見えるもの～ 平成29年8月23日
講師/平尾 勇さん 長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)
- 第65回 長野県を元気に! メンタルヘルス(心の健康)からの大きなヒント! 平成29年9月21日
講師/野池 裕子さん ダイヤモンド・セルフ長野ファースト 代表・講師

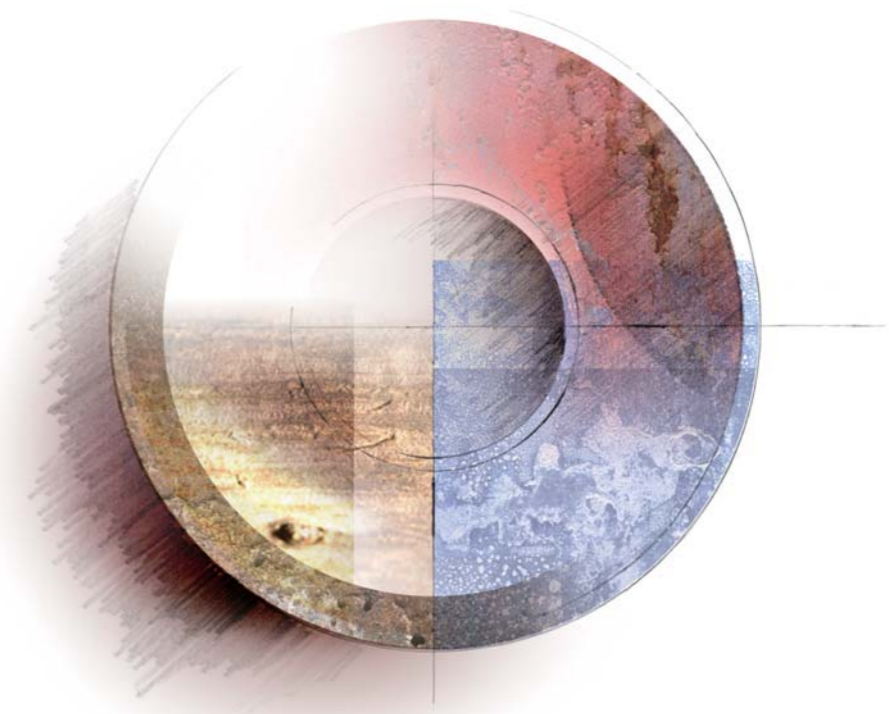


NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所
〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp e-mail:nupri@nupri.or.jp



通信

Vol. 66
2018.3



NPO法人 長野都市経営研究所

第66回

陶芸の楽しみ

平成30年3月23日(金) 18:00~20:00

講師／愛甲 宏明さん 炭平コンピューターシステム株式会社 代表取締役社長

■座長：岩野 彰 場所／NUPRI事務所



あいこう ひろあき 1953年、東京生まれ。少年青年時、鉄道模型作りへのめり込む。NTTおよび同コミュニケーションズ勤務を経て、2006年長野市にIターン(TOSYSに入社)。2010年より炭平コンピューターシステム社長。珍しい姓は熊本に多く(島津氏家来に由来)、祖父の代に熊本県人吉から上京。長野県工芸展陶芸部門にこれまで9作入選

たちの静かな熱気に満ち、建物の隣には傾斜地を利用して登り窯が造られており、それも薪で焚くという、まさしく〴〵本格。の場でした。迷うことなくお仲間に入れていただき、以来、正行先生の指導を受け、毎週土曜の午後は土と戯れています。

陶芸・焼き物とは――

焼き物と一口にいても大きく3種に分かれます。陶器=粘土の吸水性を補うため釉薬をかけて焼くことが多い/素地は有色～白/厚手。益子、美濃、唐津等全国各地に産地が点在し、長野市の松代焼もその一つです。磁器=粘土にケイ素等を含む陶石や長石を混ぜた磁土を高温で焼く/堅くて丈夫/素地は白/吸水性がなく薄づくり/多くは絵付けし無色透明の釉薬をかけて焼く。九谷焼、有田・伊万里焼等が有名。人間国宝の作家=絵付師がたくさんいます。炆器=耳慣れないかもしれませんが急須など、意外と身近にある焼き物です。素地は土っぽいい色/石のように硬く焼き締める/通常は釉薬をかけない/常滑焼、備前焼、信楽焼がそれにあたり、私も一時期、備前焼に凝りました。(写真①)

作陶は土の準備からスタート。菊煉りをして粘土の中にある気泡を抜きます。マスターするのに1年近く要するのが普通ですが、そばやうどんを打てる人はコツを掴むのが早いそうです。そして成形→乾燥→素焼き→釉薬をかけ、焼成(電気窯が一般的)までほぼ1カ月ほどかかります。成形の手法にはいくつかあり、陶芸体験でやるのは大体「手びねり」。「紐作り」は粘土をうどんのように紐にして巻きながら、手ロクロにのせて伸ばして成形していき、形を整えたら濡らしたなめし革で整えます。初心者向けでもありますが、私は大物を作るときは今もこの手法でやります。ほかに、粘土板を糸で薄切りして成形する「たたら」、型に押し込んで成形する「型押し」、そして陶芸のイメージと言ったら「ロクロ」でしようが見るとやるとでは大違い、初心者と熟練者のロクロ成形の様子をご覧ください。(動画)

素焼きした作品にかけて高温で焼くと溶けて表面にガラス質の被膜を作るのが釉薬です。水分のしみ込みを防ぐとともに成分によりさまざまな色合い(飴釉、青磁黒、黒天目釉等)を出す役割があり、例えば萩焼は藁灰、志野焼は長石が主体の釉薬をかけた焼き物。また同じ釉薬でも窯内の酸素量(完全燃焼か不完全燃焼か)によって発色が異なります。

今年初めてのわいがやサロンが開かれたのは、関東以南から桜開花の報が届き始めた弥生3月下旬の宵。NUPRI会員・愛甲宏明さんから掲題のお話をうかがいました。

わいがやサロンはそちらの席にいるものと決まっていますので気楽な立場だったのですが、今回は勝手が違い(汗)……しばらくの間、私の趣味の話にお付き合い願います。

きっかけ

2006年夏に長野市に引っ越してきました。翌春、家内が「広報ながの」で陶芸教室(中高年齢勤労者福祉センター・サンライフ長野/若里)を見つけて行きたいとなったので運転手を兼ねて始めたのがきっかけです。半年コース終了後、本格的に習いたくなり担当講師・丸山奈留美先生に相談すると丸山正行先生を紹介してくれました(奈留美先生の父/篠ノ井犬石「陶源郷 有旅陶芸教室」)。犬石の教室は、土をこねたり、作品作りに没頭する生徒さん

写真は、有旅陶芸教室の登り窯・穴窯です。作りためた作品を詰め4昼夜、寝ずの番で薪をくべ続けます。1200度を保つよう薪を数分おきに、場所の偏りなく放り込むのは至難の業。初心者は怖くて扉も開けられません(長野インターネット放送局の動画。丸山先生や私も映っています)。その後、窯の口を閉め1週間放置、窯の中の温度が下がるのを待ちます。急激に下げると作品が破裂します。登り窯は大量の薪を必要とし人手もかかるため通常は電気窯、灯油窯、ガス窯で焼いているのですが、高揚感には比べようありません。

閑話休題 ～曜変天目騒動～

2016年12月、TV「開運!なんでも鑑定団」に出された茶碗(出品者の曾祖父が戦国武将・三好長慶の子孫から譲り受けたという)に古美術鑑定家の中島誠之助氏が中国福建省にあった建窯で12、3世紀に作られた曜変天目の本物であると鑑定したことが話題になりました。曜変とは星のごとく光り輝き変幻する意。世界で最も美しい焼き物といわれ、現存するのは世界に3点のみ、いずれも日本にあり国宝(静嘉堂文庫美術館、藤田美術館、大徳寺龍光院が所蔵)。番組始まって以来の発見か!と放送された後、専門家から疑問の声が相次ぐ騒ぎになったのです。

国宝3つのうち2つは私も鑑賞したことがあります。1時間見ても飽きなかったけれども出品作は「どう見ても違うよな」というのが私なりの感想でしたが……。〔開運〕番組のゴタゴタが週刊誌を賑わせ、茶碗の真贋については宙に浮いたままになった今年1月、別番組がスクープ(!?)。2500万円の鑑定額が出た茶碗は、中国福建省の陶芸家が、自分が骨董品レプリカとして土産用に量産し100～200円で売っているうちのひとつだろうと名乗り出たのです。

放映時に異を唱えた専門家の一人が瀬戸市で代々陶工の家に生まれた九代長江惣吉氏です。先代が曜変天目再現にのめりこんで身上を潰しかけたため自分はやらないと決めていたそうですが父親没後、研究している由。再現はかなり近い線まで行っているそうで、その価格数百万円だとか。陶芸を始めてから旅行目的地が陶芸に傾いたかと思いましたが、前から夫婦で日本各地にある陶芸の里や海外でもマイセン等を訪ねてましたね。

火の神様

曜変天目茶碗の再現には丸山正行先生もチャレンジされています。先人や先生方が人生をかける、深い陶芸世界ではありますが、お目障りでも経験わずか10年の私の作品を幾つかお見せしたいと思います。(写真①、②、③)

陶芸の魅力って何だろう。菊煉りやロクロ、幾何学模様を描くときはそのことだけに集中しないと失敗します。その時間空間は〴〵無の境地、に近いかも。また本格登り窯の教室に入らせてもらっただお陰によって知った火の神様の存在。4昼夜の間には自分の力が到底及ばないことが窯内で起きていて、開けたときに想定していなかった、あるいは想定以上のものが出てくるのは火の神様の仕業のほかありません。ですから、窯入れ後はただただ火の神様に「どうかよろしく願います」と祈ります。

ご清聴ありがとうございました。

わいがやタイムにては、「陶芸をやってみたくなった」「自分は仕事や雑事に追われて、とても趣味まで回らないと思っていたが、時間は使い方次第と教わった」などの声が聞かれました。



有旅陶芸教室の登り窯・穴窯

▲②
炆器:自作の棧切縦片口(備前土)と猪口(越前土)▲①
2013年長野県工芸展に初入選した作品「焼締大壺(花器)」

◎ 2017年長野県工芸展入選作品「呉須絵市松紋大皿」は同秀作展(北澤美術館)でも展示された。呉須を使った市松模様(藍と白)のバリエーションをさまざまに展開中

